特別支援教育の扉 №２９　　令和４年１２月２０日発行

「元気いっぱい・笑顔いっぱい」

特別支援教育統括コーディネーター　加賀谷　勝

「き・こ・う」

１２月９日（金）、琴丘中学校ＰＴＡ研修会が行われました。**「心のバリアフリー」～自分の思いを聞こえるように、見えるように～**というテーマで、保護者と全校生徒に対して、講話や質問・体験コーナーを通じて、**「き・こ・う」**の大切さを紹介しました。

はじめに

日本における６５歳以上の高齢者、性的少数者、障害者、在留外国人の数を示して、私たちの周りにはいろいろな人がいることを確認した。

多数派の人は、少数派の人の困っていることや大切なことに気付く必要がある。

１　４つのバリア（物理的バリア、制度的バリア、文化・情報面のバリア、心のバリア）

４つのバリアを写真で紹介し、心のバリア（心ない言葉、視線、無関心、偏見や差別）を取り除くことが一番難しいと説明した。

心のバリアを取り除き、共生社会を実現するためには、いろいろな人がいることを知ることがスタートである。

２　心のバリアフリー

中学生人権作文コンテストの新聞記事「本当に恥ずかしいこととは」を取り上げた。作文を書いた本人（Ｔさん）とそのお母さんが秋田駅前で、上り坂で困っていた車いすの男性を見掛けたとき、Ｔさんの母親が「お手伝いしましょうか」と言葉を掛けて目的地まで車いすを押した。Ｔさんは、母親が車いすの男性と話をしたり、車いすを押したりしているときに周りからじろじろ見られたことを恥ずかしいと思った。それに対して母親は、困っている人を見て見ぬふりをする方が恥ずかしいと話した。Ｔさんは、お母さんの一言に「恥ずかしい」という言葉の意味をはき違えていたことを反省した。最後にＴさんはこんな言葉でまとめている。今度はきっと言えるはず。「お手伝いしましょうか」と。

困っている人に気付いたら、ほんの少し勇気を出すことが、相手に大きな力となる。たとえ断られても相手に思いやりは伝わる。

３　楽しい体験　テーマ「相手と気持ちを重ね合わせよう」

（１）テレパシーゲーム
　・ペアになりジャンケンのように１から３までの数を出し合い、同じ数になったらＯＫ。
（２）ペンでアップダウン
　・互いの人差し指でペンを支え合い、床に落とさないようにしゃがんだり立ったりする。
（３）音を一つに
　・ペアでパチンと音が鳴るように、目をつぶって手と手を合わせる。

互いの気持ちを合わせる心地よさが、自己理解や他者理解につながり、信頼関係を深める。

４　まとめにかえて

「心は見えないけれど心遣いは見える、思いは見えないけれど思いやりは見える。どちらも人に対する積極的な行為だから」という、宮澤章二さんの詩「行為の意味」を紹介した。

「き（気付く）・こ（言葉にする）・う（動く）」を実践できる人になろう。

とれたて直送便

「お兄さんだから、しっかりしなさい！」

弟ができた途端、上の子に対して、「お兄さんだからしっかりしなさい」と話してるという保護者がいました。これまで親を独り占めできたお兄さんにはＮＧワードです。たっぷりと甘えた経験があれば、子どもの心は愛情で満タンとなり、自分で考えて行動するようになります。**いい子だから可愛がるのではなく、可愛がられた子がいい子になるのです。**